

階層的不均質断層モデルにおける震源核成長

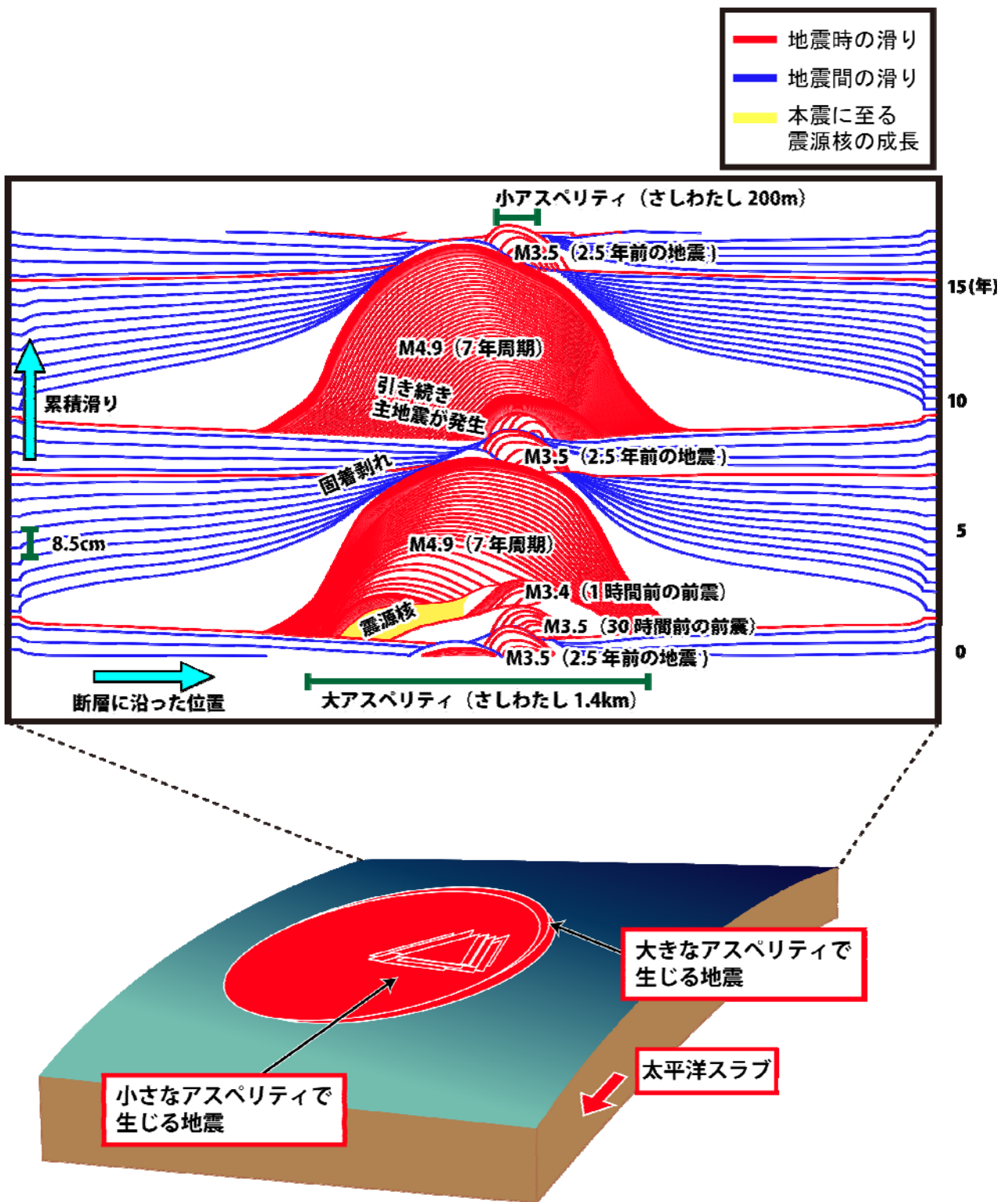


図 11. 階層的不均質断層モデルにおける震源核成長

横軸は断層の走向方向にとった距離、縦軸は各地点の積算滑り量を示す。赤線は地震発生時の0.1秒ごとの積算滑り量、青線は地震間の0.5年ごとの積算滑り量を表す。ただし、赤線は最大滑り速度が0.1 m/秒以上になった場合の0.01秒ごとの積算滑り量を示している。大きなアスペリティのなかに小さなアスペリティが存在する断層モデルでの地震サイクルシミュレーションの結果を示している。大きな震源核が準静的に成長して大地震に至る場合と、小地震が上位階層のアスペリティの破壊を動的にトリガーする場合とが交互に起こっていることがわかる。